

令和3年度 大田区立入新井第二小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

学校規模…児童数 614名 学級数 20学級 サポートルーム(特別支援教室)拠点校  
 目指す学校像…学力・心・身体がバランスよく成長している健康な子供が育つ学校  
 校内研究テーマ…基礎基本を大事にして 確かな理解をめざす～国語科におけるユニバーサルデザインと個別の支援の視点を取り入れた授業づくり～

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:タブレットを使って、授業で知りたいことを調べることができるという3年生以上の児童が80%以上。 3:タブレットを使って、授業で知りたいことを調べることができるという3年生以上の児童が70%以上。	4	【取組】ALTの教員と連携し、ゲームや歌も取り入れ、外国語を身近に感じられるようにしている。 ・感染症対応を講じながら算数や生活科で体験活動を取り入れたが、「おおたものづくり」教育に位置付けることは弱かった。 ・ICT機器をほとんどの授業で活用することができている。 ・人権について授業の中で扱うだけでなく、日頃から意識を育てていけるよう指導している。 【改善策】 ・ALTと交流する英語カフェの内容をより工夫していく。 ・体験活動が「おおたものづくり」に位置付いたものになるよう、各教科の体験学習を整理する。 ・児童がタブレット端末を活用する場面を、授業・家庭で増やしていく。 ・児童が作品に人物を描く際に、人権に配慮して作品づくりができるように、組織的に指導・点検を行っていく。 ・体力テストの結果から、本校児童の体力面での課題を明らかにし、授業や体育朝会などで育成していけるよう年度当初から計画を立てて取り組めるようにする。	A	7	
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	2	2:タブレットを使って、授業で知りたいことを調べることができるという3年生以上の児童が60%以上。 1:タブレットを使って、授業で知りたいことを調べることができるという3年生以上の児童が70%未満。	4		B	1	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4		4	C	0
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	2		4	D	0
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	2	4:保護者の学校評価アンケートの設問「子供は学校の授業で学力が伸びている」に肯定的評価をした保護者が85%以上。 3:保護者の学校評価アンケートの設問「子供は学校の授業で学力が伸びている」に肯定的評価をした保護者が75%以上。	4	【アンケート回答者数】611名中508名 【取組】学習カルテに基づき、児童の苦手な内容を宿題に出したり、個別に指導するようにした。 ・ステップ学習の結果がタブレットに移行したが、回線がつかなくなったり、不具合があつた保護者に学習の成果が十分に伝えることができなかった。 ・補習で指導する支援員の数を増やした。算数の補習を行う中で、参加した児童に学習内容が定着している状況が見られる。 ・学力効果測定の結果から、本校児童の成果と課題を分析することができた。 【改善策】児童のつまずいている内容を克服させる指導法について研修を深めていく。 ・チェックシートの見方等を保護者会で説明し、より保護者と連携した指導が行えるようにしていく。 ・補習が必要な児童の保護者と連携し、補習の効果や参加率を向上させていく。 ・授業改善推進プランを学期始めや終わりに確認し、活用していくようにする。	A	8	
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%未満であった。	1	2:保護者の学校評価アンケートの設問「子供は学校の授業で学力が伸びている」に肯定的評価をした保護者が65%以上。	4		B	0	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:保護者の学校評価アンケートの設問「子供は学校の授業で学力が伸びている」に肯定的評価をした保護者が65%未満。	3		4	C	0
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3				4	D	0
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をばぐみまします。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	4:保護者の学校評価アンケートの設問「学校は、子供の人権を尊重する姿勢で指導している」に肯定的評価をした保護者が90%以上。 3:保護者の学校評価アンケートの設問「学校は、子供の人権を尊重する姿勢で指導している」に肯定的評価をした保護者が80%以上。 2:保護者の学校評価アンケートの設問「学校は、子供の人権を尊重する姿勢で指導している」に肯定的評価をした保護者が70%以上。 1:保護者の学校評価アンケートの設問「学校は、子供の人権を尊重する姿勢で指導している」に肯定的評価をした保護者が70%未満。	3	【アンケート回答者数】611名中508名 【取組】小中一貫の会は感染症拡大防止のため人数を絞って実施したが、連携校と情報交換しながら生活指導上の課題について共通理解の上、進めることができた。 ・道徳授業地区公開講座は、保護者への公開は行えなかったが全学級で授業を行った。 ・メンタルヘルスチェックによって、必要に応じて児童との面談を行い、状況に応じてスクールカウンセラーとつなげることができた。 ・金曜に行う生活指導学会で、些細なことでも、いじめや問題行動・不登校児童の情報交換を行うことができた。 【改善策】小中一貫教育の重点項目である「運動やスポーツの楽しさを味わう」については、今後もその都度指導し、徹底する。 ・道徳授業の研修をOJTで実施していけるよう、年間計画に位置付ける。 ・メンタルヘルスチェックについては、良い成果をあげているので、今後も結果を活かした指導を全体で行っていく。 ・いじめに関する情報交換を今後も定期的を実施すると共に、未然防止・早期発見につながる内容も授業で実施していく。 ・学期の始まりの欠席状況には特に注意して様子を見る。家庭との連絡を密にする。	A	6	
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4		B	2	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	3		3	C	0
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4				4	D	0
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4:保護者の学校評価アンケートの設問「子供は、進んで体力向上に努めている」に肯定的評価をした保護者が80%以上。 3:保護者の学校評価アンケートの設問「子供は、進んで体力向上に努めている」に肯定的評価をした保護者が70%以上。	4	【アンケート回答者数】611名中508名 【取組】感染症対策を行いつつあつたが、保護者にも協力いただき、「早寝・早起き・朝ごはん」月間の実践を行うことができた。 ・栄養士・給食委員会を中心に「食育」への取組を行った。 ・感染症対策を行いつつ、運動公開日を実施することができた。朝遊びやふれあいタイム、休み時間以外遊びを奨励し、体力向上に努めた。 【改善策】感染症予防を講じながら、規則正しい生活を身に付けていけるよう今後も指導していく。 ・感染症拡大の状況に注視しながら、今年度できなかった「どうもこしの皮むき」などの食育の活動を再開していく。 ・感染症拡大の状況に注視しながら、可能な限り体力をつけていく取組を実施し、体力向上を図りながら免疫力を付けさせる指導を行っていく。	A	8	
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいつつ「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	2:保護者の学校評価アンケートの設問「子供は、進んで体力向上に努めている」に肯定的評価をした保護者が60%以上。 1:保護者の学校評価アンケートの設問「子供は、進んで体力向上に努めている」に肯定的評価をした保護者が60%未満。	4		B	0	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4				4	C	0
			4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4				4	D	0
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	1	4:保護者の学校評価アンケートの設問「子供は、安全に関する知識を理解し、対抗の仕方を身に付けている」に肯定的評価をした保護者が90%以上。 3:保護者の学校評価アンケートの設問「子供は、安全に関する知識を理解し、対抗の仕方を身に付けている」に肯定的評価をした保護者が80%以上。 2:保護者の学校評価アンケートの設問「子供は、安全に関する知識を理解し、対抗の仕方を身に付けている」に肯定的評価をした保護者が70%未満。	4	【アンケート回答者数】611名中508名 【取組】感染症拡大防止のため、授業公開は実施できなかった。 ・今年度も主任教諭を中心にOJTを実施し、良い学び合いができた。 ・区教育研究会の研究研修の成果等を授業改善に活かすことができた。 ・校内委員会は定期的または必要に応じて実施し、特別支援教育の充実のために努力した。 【改善策】感染症拡大の状況に注視しながら、学校公開を再開する。 ・OJTの時間に主任教諭が中心となり講師となる研修を継続して実施していく。	A	8	
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4		B	0	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	3				4	C	0
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	3				4	D	0
プラン6 学校・家庭・地域もに家庭もに地域もに	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	4:保護者の学校評価アンケートの設問「学校だよりやホームページ、緊急メールによって、保護者として知りたい情報が伝えられている」に肯定的評価をした保護者が90%以上。 3:保護者の学校評価アンケートの設問「学校だよりやホームページ、緊急メールによって、保護者として知りたい情報が伝えられている」に肯定的評価をした保護者が80%以上。 2:保護者の学校評価アンケートの設問「学校だよりやホームページ、緊急メールによって、保護者として知りたい情報が伝えられている」に肯定的評価をした保護者が70%未満。	4	【アンケート回答者数】611名中508名 【取組】ホームページは、学校行事、集会活動、給食等については、随時更新している。今年度は配信メールでの緊急の連絡が多くなったが、保護者に情報をいち早く知らせることができた。 ・地域教育連絡協議会では、児童の様子をお知らせするとともに年度末には、具体的な取組の状況を数値等でも示し、評価を受けるようにしている。 ・学校支援地域本部は、適宜学校と連携をとり、地域の花壇整備等、学校独自では実施が難しい活動に積極的に取り組んでもらっている。 【改善策】地域教育連絡協議会での協議内容について、教職員にも伝えることができるようにしていく。 ・学校支援地域本部とは、引き続き連携・情報交換し、感染症拡大の状況に注視しながら、活動を再開していけるようにする。	A	8	
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3				4	B	0
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3				4	C	0
			4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4				4	D	0

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。